

2011年度第2回執行理事会議事録

期 日：2011年7月16日（土） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 渡部副会長 藤本常務理事 齋藤副常務理事 小嶋 石渡 高木
内藤 中井 西 向山 各理事，事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：久田副会長 井龍 坂口 平田 藤林 星 山口

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者11名，委任状7名，合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 前回議事録の承認

承認された。

2. 9月理事会の議案について

- ・行動規範の策定。
- ・学会としての震災対応のアクションプラン：
アクションプランの一つとして震災対応の一般向けの出版物の作成。

3. 地質学雑誌特集号「東北地方太平洋沖地震 ―統合的理解に向けて―」について 本企画については委員長，副委員長が世話人になっているので，編集委員会で議論しても議論にならないので，執行理事会に諮ることにした。スコープについては世話人のなかでもまだ議論がある。

<内容構成について>

立場によって言いたいことが変わるので，その羅列でもいいのではないか，地質学的な手法の重要性を主張すればいいのではないか，地質学の範囲を超えて，減災等の社会へのアピールはしないのか，等の意見が出された。

地質学者は野外で今回の地震と同様のことは見ているはずなので，それについてサイエンスとして議論すること，地質学雑誌で行う特集なので会員向けとし，津波堆積物，液状化（←地震そのものではなく，結果）といった地質学の得意分野を中心として構成すること，等の意見が出された。提言(巻頭言)ないし総括的な論文どうするかよく検討して編集委員会で実行してもらうこととなった。

4. 地質学雑誌編集出版規則細則の一部修正について

やむを得ず翻訳本を引用する場合を想定して，文献引用方法について追加する。

例>パスキエ・トロー，鳥海光弘・金川久一訳 (Passchier, C. W. and Throw, R.A.J., translated by Toriumi, M. and Kanagawa, K.), 1999, マイクロテクニクス.....

5. 関東支部より、科学研究費補助金の「分割交付」ならびに減額示唆に対して、連合、学術会議等とも連携して、速やかな全額交付実現のための行動をおこすよう、以下の理由を添えて検討要請があった。
 - 1) 復興会議の方針によれば、こうした方式が他分野にも拡大する危険がある
 - 2) 受注者である業界、産業界にも打撃と混乱が広がる。これについては、地質学会というよりは連合等でとりまとめて要望するようなことなので、協力をすることも含めて、会長から連合に申し入れる。
6. 地学オリンピックや広報誌のための一般向けコンテンツを作成する件
1000字1万円くらい(取材費込)でプロのライターに依頼する。英訳はオリンピック委員会と相談。
7. その他
連合の代議員選挙の紹介があった。広報委員会で連合の登録を推進する(特に連合大会に出なかった人は本年度の会費を払っていないので)。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 東レ科学振興会より第61回科学講演会「科学技術と知の文化」(9/16, 朝日ホール)の後援依頼を受け、承諾した

<外部の賞>

1. 朝日新聞文化財団より朝日賞の推薦依頼(〆切8/31, 学会〆切8/19)→HP, geo-flash, News誌に掲載

<その他>

1. 連合として共同声明を發表し、地質学会会長も6月30日の記者会見に同席した。
2. 連合経由:「科学技術に関する基本政策について」の見直し案に関する意見は藤本理事原案を提出した。
3. 挨拶状:無機マテリアル学会(会長 板谷清司),日本原子力学会(会長 田中 知)
4. 挨拶状:資源素材学会は7月より旧の公益法人から一般社団法人へと移行した。
5. 挨拶状:役員就任 石油資源開発(株)(会長棚橋祐治,社長渡辺 修),日本海洋石油資源開発(株)(渡辺 修)
6. TBSテレビ系の道具会社(有)オルフに対し7/5-7/11まで地質学雑誌等を貸出した。
7. 上砂理事より、浦安市の液状化対策に関しての情報と意見が寄せられた。
8. 文科省より「一家に1枚」ポスターの企画募集,締め切り9/1(木),科学技術週間に合わせて全国の小中高並びに一般に配布予定
9. 国際地質学史委員会 INHIGE02011のThird circularとプログラム→HP, geo-flash

に掲載

10. 科学技術振興機構から、「23年度SSH生徒研究発表会出展案内」があった。→
中井・藤林両理事に転送、後の対応は不明

<会員>

1. 今月の入会者（5名）

正会員（2名） 佐藤 剛，根本達也

正〔院割〕会員（3名） 志賀由佳，保名七美，曾山智加

2. 今月の退会者（8名）

正会員（6名）：江河慶多，竹内美緒，平井絢子，齊藤千帆，佐久山尚文，勝根 郷

正〔院割〕会員（2名）：小川宏和，藤原 暁

3. 今月の逝去者（2名）

正会員：降旗和夫(6/18)，長岡信治（7/10）

4. 5月末日会員数

賛助：26 名誉：73 正会員：4037（正会員：3850 正〔院割〕会員：175

正〔学部割〕会員：12）合計 4136（昨年比 -5）

<会計>

1. 受託研究について

委託機関に見積書を提出し，注文書を受け，7/8 付で請書を返送し正式に受託が成立した。

情報セキュリティについての対策を作成して受注した。2/29 までに委員会を3回行う。

この成果についての国際シンポジウムへの協力を要請された。

2. 賛助会員の日本工営(株)および(株)テクノアースより，賛助口数を1口に変更の願いがあった。

3. 出版者著作権管理機構より，平成21年度著作権使用料(32,000円)の分配額の提示があった。入金は10月末の予定。

4. 今年度科研費の交付は，分割交付とのことで，はじめに98万円（70%）が支払われることとなった。

(2) 広報部会：広報委員会（坂口）

- ・部会・支部の連絡ツール，SNS導入のため，(株)ウェブティに発注した。

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

1) 水戸大会

- ・大会スローガン 「いま，地球科学になにができるか？」
- ・発表数 806件
- ・シンポジウム 26件

地質学会 35 セッション 515 件 (308+207)

鉱物科学会 13 セッション 265 件 (158+107)

2) 巡検の安全対策

- ・原発被災関係地域に行く巡検については、放射線量計を携行することを検討する。

- ・水戸大会はもちろん、学会の標準として、突発的事故に対する注意喚起と対応マニュアル(安全管理者の設定、緊急連絡体制、避難場所のチェック)の作成が必要。地質災害委員会として8月初旬までに準備をする。

3) 大阪大会の見学旅行コース案について検討中

4) 連合のプログラム委員は、昨年度に引き続き七山太・大坪誠の両会員を推薦することとした。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

1) 今月の編集状況（6月13日現在）。

- ・投稿論文総数 35 編 [総説 1（英文 1），論説 22（和文 20，英文 2），ノート 6（和文 6），報告 6（和文 6）] 口絵 4（和文 4）

* 論説には 5/31 までに投稿された短報を含む

- ・査読中 39 編 受理済み 24 編（うち通常号 11 特集号 13）

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

- ・編集状況の報告

- ・次期編集長：伊藤 慎・海野 進

- ・7/13 W-B 社の新担当者として荒生氏ならびに藤堂氏の訪問を受けた。

(7) 企画出版委員会（山口）

- ・リーフレット三浦半島の地質図について：現在作業中、8月末に仕上げ作業を行い、9月の学会でポスターとして討論予定。

- ・愛智出版より「地学読本」を増刷(1000部)したとの連絡があった。前文については、出版社に変更を要求する。

(8) 社会貢献部会（藤林）

1) 地学教育委員会（中井）

- ・水戸大会の高校生の申し込み 6校 8件。

- ・高校の地学教員の採用実績について東京アカデミーに転載の要望を出した。現在返事待ち。

- ・連合の記者会見で地学教育に関心を持った社があったのでデータを用意しておくのが望ましい。

い。

- ・教員採用の要望書を今年も出して行きたい。本年は遅れた。早急に対応をする(各

県教育委員会，文科省，文科省記者クラブ)。採用計画が3-4月なので，そこをねらって出すのがよい。

(9) ジオパーク支援委員会 (高木)

- ・ジオパーク支援委員会(高木)西日本支部推薦委員として大木公彦氏から松田博貴氏に交代。
- ・GGN加盟をめざす室戸ジオパークは，7月13-14日にGGNからの視察を受けた。
- ・次回日本ジオパーク委員会は9月5日に開催され，そこで日本ジオパーク申請中6件(男鹿半島・大潟，磐梯山，茨城県北，下仁田，秩父，白山手取川)
- ・世界ジオパーク国内推薦の申請1件(隠岐ジオパーク)の可否が決定される。

(10) オリンピック支援委員会

- ・委員会活動報告あり。

(11) 震災復興事業プラン検討WG (高木・向山・藤本・斎藤)

- ・事業プラン応募件数 7件 (うち2件 標本レスキュー)
- ・7/16現在の採択4件，1件保留，2件不採択

採択分(申請者：事業プラン)

榊原正幸：放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション

高橋正則：微生物による放射性物質の除染

永広昌之：歌津魚竜館大型標本レスキュー事業

大石雅之：陸前高田市立博物館標本救済事業

- ・採択されたプランについては，ニュース，HPにわかりやすい提案文書とともに掲載する。年会のプレスリリースにも加える。

(12) 連携事業委員会 (渡部)

受託研究については前出

以上